〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

対面リーディング通信

2013年 12月

2013年12月1日 発行　　第152号（隔月刊）

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

「対面リーディングの集い」の報告

日時：11月14日（木曜日）　13時〜16時

今回の集いはいつもと趣向を変え、利用者をお迎えし、サービスを受ける側と実施する側が一つのテーブルを囲い意見交換をする方法ではじめました。

ボランティア23名、利用者6名の参加者からは活発な意見をいただき、本当にありがとうございました。

第1部　講演
シネマ・デイジー（映画の音声と音声解説を収録したデイジー）製作について 講師：渡邊洋子さん （キネマ・アンサンブル所属）

※以下、＜＞内は音声解説の文章例です。

「シネマ・デイジー」とは、映画の音声と音声解説を収録したデイジー図書を指します。情文では今年の6月から貸出を開始し、好評をいただいています。

映画等の音声解説は、決まった時間内（上映時間、セリフとセリフの間）に挿入するため、必要なものでも極力削除して文章をつくります。例えば「座ります」とセリフで言っていたり、椅子が動く音が聞こえたりするようなら、＜〇〇（人名）、座る＞といった解説は入れないことにしています。

DVDが市販されている作品で、そのDVDに音声解説がついていない場合に限り製作しています。

製作時に気を付けていること

☆映画で語られていることが全て

…解説を作る際様々な参考資料を集めるが、そこで得た知識を勝手に解説として追加してはならない。　（2ページに続く）

今月号の主な内容

「対面リーディングの集い」の報告		木田　陽子	1
対面リーディング難所物語	群像の書評欄で腰痛談義とは？	二村　晃	4
私のふるさと	私の心のふるさと	稲田　久美	5
誌上勉強会	図表の読み方	木村　謹治	6
寄り道・回り道	乾燥に負けない、ハンドクリーム	谷口　由紀	12
人と人生	浅川智恵子	木村　謹治	13

☆どれを選んでどれを削るか

…馬乗りになる、腕に噛み付くなど、音が無くて伝わらないものは、解説を入れるようにしている。正解はないけれども
利用者から「自由に想像させてくれる時間（間）がほしい」という意見も出た。

☆セリフの上に解説を重ねない

☆長い文章は避ける

…＜みかんを投げて目配せをし、発言を制する社長＞→＜社長、みかんを投げて目配せをする＞（結果的に相手が黙ったことは、音声を聞いていればわかるので省略）。普段は体言止めだが、文章が長くなるときは主語を先に出す。

☆専門用語・仲間内の言葉・外来語を極力使わない

…ただし言い換えた説明が長くなりすぎる場合は例外的に使用。
例：“タンジュウ（炭鉱労働者専用住宅）”→“長屋”“炭鉱住宅”と言い換え
“センタンバ”って、石炭を洗う場所？？（実際は“選炭場”）
チャンバラのシーンの説明も「バッサバッサと斬る」「斬り捨てる」に言い換えたことも。

☆場所、テロップは必ず解説として入れる

外国語のセリフについた字幕を棒読みにした（感情を入れずに読み上げた）ところ、「誰のセリフかわからない」「逆に演技されるとわずらわしい」など賛否両論。

☆名前をいつ入れるかを考える

…最初に登場したときに入れるのが一番良い。が、サスペンス系などは例外。

☆数字を入れる

…「風の谷のナウシカ」の王蟲（オーム）の説明として“大きなダンゴ虫”ではどれくらいの大きさか伝わらないので、例外的にパンフレットからの情報を入れて、＜ダンゴ虫に似た大きな物体。高さ 10m、全長 25m＞とした。

☆色について…利用者から「色の説明もしてほしい」という要望もある。

☆読みの速さ　…アクションシーンには「普段より１０％速く読みましょう！」を合言葉に。

☆音のバランスが大切

映画は映画監督のものである。解説が邪魔をしてはいけない。

★☆★*:.｡　｡.:*☆★☆

　講演では実際に映画「夫婦善哉」の、①元の音声　②一般的な量の解説　③説明を目一杯つけたもの、の３種類を聴き比べてみました。会場からは「③の方が②より場面の説明が詳しくて、より情景が思い浮かぶ」「２時間ずっと③を聞いていると、きっと疲れると思う」というご意見が出ました。

　音声解説に正解がないところは、対面での読み方と同じです。目一杯入ったもの、少なめのもの、と利用者の方が自分に合った解説を選べるようになるのが理想的ですが…、と渡邊さんは仰っていました。

　ほかにも、製作で苦労することとして、事前にモニター会はするけれども完成後は上映会のスタッフ・図書の貸出担当経由で反応を聞いていること、古い洋画の製作希望は多いけれども吹替版がなくて出来ないことなどを挙げておられました。

第２部　交流会

１、雑談について

　ボランティアの方のみの意見交換会でも関心の高かった事項です。

　まず利用者の方より「施設によっては『あまり雑談するな』というルールもありますが、情文ではどうですか？本を読んで頂くだけでなく、雑談で読書の楽しみを共有したいと個人的には思っているのですが」という質問がありました。（職員より：情文では、雑談を禁止してはいません。）

[ボランティア]

・資料を読むための時間に雑談をすると、図書にかける時間が少なくなって、申し訳ない気持ちになる。
・利用者のニーズだから良いのでは。
・雑談のおかげで緊張がほぐれた。

[利用者]
・雑談は、読み始めてもらう前の準備体操のつもり。
・２時間ぶっ通しでは、読み続けるのも聴き続けるのもつらいことなので、休憩のために雑談を挟んでいる。
・対面のよいところは、すぐに質問が出来ること。（視力の関係で）とにかく自分で調べられないから、対面でいろいろ会話して、情報収集をしている。

２、朗読なのか音訳なのか

[利用者]
・個人的には感情を入れない読み方でつくられた録音図書の方が好み。自分だけで映画などを楽しむときも、副音声に頼ることがあまりない。でも画面を正確に伝える為には解説が不可欠だと思う。
・デイジー図書で、読み手が１人で１０人くらいの声色を使い分けているのがあって面白かった。けれども、淡々と読んでいても感動する作品は多い。
・ラジオドラマなどは“芸”、対面は音に訳すだけだから“芸”ではない。
・声色を使い分けている録音図書も面白いが、いろいろ聞いているうちに“味の濃い人は飽きてくる”。
[ボランティア]
・録音図書製作を習い始めた頃、『自分の“色”をつけなさい』と習ったが、自分の読み方を押し付けているのでは…という疑問を感じていた。音訳と出会ってからは、活字を“無色透明”のまま伝えることを目指している。

３、対面で受け付ける資料

[ボランティア]
・対面で音声解説ができないだろうか？「今の誰？」「△△ですよ」とすぐ答えたり、字幕を読んだり。その前に映画を見ておく“予習”が必要かもしれませんね。
[利用者]
・予約時に読む資料を申告するが、内容にあわせてコーディネートしてもらえるのでいいことだと思う（急に別の資料が必要になってしまって、当日それをお願いすることもありますが…）。
・サピエで小説がデイジーになるスピードが速まっている。だから対面で専門書を読んでもらうことが増えているのでは？
・自分にとっても未知の本を持ってきているので、殺人事件の詳細や「顔が赤くなる」記事が含まれている場合があるかもしれません。でもわざと持ってきているわけではありません。（ボランティアより：我慢して読むのが当たり前、になってはいけないと思います）
[利用者]
「これはいやだと言うジャンルは？」
[ボランティア]
取扱説明書。機械の現物がその場になかったので、図を見ながら『どうやったら説明できるかなあ』と悩んだ。
[利用者]
私は「図やグラフは飛ばして良いですよ」とお伝えしています。
[利用者]
あるボランティアの方が「意味がわからないまま読むのはつらい」と仰った。やっぱりしんどいものですか？
[ボランティア]
前に「理解しようとして読んでくれるとわかりやすい。字面だけ読んでも伝わらないよ」と言われたことがあった。

今回初めて利用者の方も交えた交流を行い、活発な意見交換が出来たことは非常によかったです。ただ、依頼内容が話題に上がった際、守秘義務への配慮が足らなかったことを反省しております。

78. 群像の書評欄で腰痛談議とは？

二村（ふたむら）　晃（あきら）

　私は毎月、N - b u nの皆さんにお願いして、群像の書評欄を音訳して頂いています。批評家が作家そこのけの文学論を展開する書評欄で、文章も用語も難解といわれる評判のコラムです。私は理解できない用語の前で立往生することが多かったので、奥の手として原本をコピーして同封して頂いています。最近は難解語句に注釈をしっかり入れて頂いているので、原本を繰る頻度は少なくなりました。でも、手許に原本があるということは、対面リーディングと同じでいつでも難所を切り抜けられて、とても助かります。

　さて、今号でご披露するのは群像８月号の書評欄です。いつもながら固有名詞の注釈は堂に入ったもので、漢字をしっかり伝えて頂いています。

「人間と小説のジョウド‥ゴクラクジョウドのジョウドで‥浄土」という評論の標題。

「マチダコウ‥ムラやマチのマチ、タンボのタ、ケンコウのコウで‥町田康」が評者名。

「ツツイヤスタカチョ‥チャヅツのツツとイドのイ、トクガワイエヤスのヤスとサイゴウタカモリのタカで‥筒井康隆著」と理解しました。

　ここで面白いのは「康」の字の説明です。音ヨミの場合は健康の康と呈示されました。訓ヨミの場合は、徳川家康を呈示されたのです。細かい配慮に感服しました。

　実は、私の父は康（ヤスシ）という名前でした。文字を尋ねられると、少し誇らしげに「徳川家康の康」と答えていました。真田幸村や十勇士ファンの小学生の私は、狸ジジイの家康が大嫌いで、「健康の康と言ってくればいいのにと思ったことでした。因みに、私の名前は東照宮の日光を縦に書いた晃（あきら）です。父の家康びいきもなかなかのものでした。

　さて、話を筒井康隆の本に戻します。タイトルは、『セイコン‥セイはヒジリ、コンはキズアトで‥聖痕』。さて、書評はいきなり腰痛の話で始まります。こんな具合です。

「腰痛というものはまことに辛いものらしく、何でもない靴紐を結ぶとか、パンツを履くといった動作が苦しくてならず、一大事業をなすという決意をしなければ取りかかれないらしい。その腰痛というのは背骨の異常から生じるものだが、変形した背骨が通っている神経を圧迫して、傷つけることで起きるようだ。これを放置すると、神経の損傷が進んでやがて麻痺してしまう。麻痺してしまえば痛みがなくなる。そんなことを思い出したのは筒井康隆氏の長編小説『聖痕』を読んだからである……」。こんな書き出しで、主人公がある事件によって欲望を失ってしまい、人間が根源的に悩む苦しみを持たなくなったことから生じるさまざまな生きざまが描かれることを示唆されています。

　私も腰痛に悩んでおりますが、背椎の神経が麻痺してしまうと、足腰が動かなくなって立つことも歩くこともままならなくなるでしょう。痛みがなくなっても、これでは人間の生き様として、何とも悲しい姿です。私は痛みがひどくなると、腰を45度近くも曲げて歩いています。外出は難しくなりましたが、まだまだあがき続けるつもりです。

『聖痕』の主人公は、どのように生きていくのでしょうか？　音訳作品が待たれます。

私の心のふるさと

点字製作　稲田（いなだ） 久美（くみ）

「ふるさとは？」と尋ねられると、私は返答に困り、「出身は、大阪です」と答えることにしています。それは、言葉や文化、風土など私が思い描く「ふるさと」とは一致しないからです。友達には「ふるさとも出身も一緒やわ～」と言われますが、心の真ん中があったかくなる場所・安堵感を覚える場所こそが「ふるさと」だと思うのです。

そこで、今回は、私の心落ち着く場所のひとつである、東山の月輪山(つきのわさん)のふもとにある「御寺泉涌寺(みてらせんにゅうじ)」をご紹介させて頂きます。

泉涌寺は、京都市東山区泉涌寺山内(町やまのうちちょう)にある真言宗泉涌寺派総本山の寺院で、山号(さんごう)は、東山(とうざん)又は泉山(せんざん)、ご本尊は、過去を表す釈迦如来、現在を表す阿弥陀如来、未来を表す弥勒如来の三世佛(さんぜぶつ)です。

天長年間(824-834)弘法大師が草庵を結び法輪寺(ほうりんじ)と名付けられ、後に仙遊寺(せんゆうじ)と改名されるも、嘉禄（かろく）２(1226)年寺地の一角から清水が湧き出たことにより泉涌寺と改名されました。その泉は、今なお枯れることなく湧き続けています。

また、仁治(じんじ)３(1242)年、四条天皇ご崩御の際、当寺でご葬儀が執り行われてから歴代天皇のご葬儀も営まれており、皇室の御香華院(ごこうげいん：お香を焚き花を供える場所)として、皇室から長く篤い信仰を集め、「御寺泉涌寺」と呼ばれています。

京阪本線の「東福寺」駅から、徒歩約２０分。東大路通りを超えてからの泉涌寺道(せんにゅうじみち)と呼ばれる参道を進み総門を入ると、幾つかの塔頭に交じって、幼稚園や中学校があります。その参道をさらに歩き進めるにつれて、だんだんと郷愁にかられてくるのを感じます。大門を入ると左手には「楊貴妃観音堂」があり、世界三大美女のひとり「楊貴妃」にあやかりたいと若いお嬢さんや美容関係の方の参拝が絶えないようです。私は、とりわけ御座所庭園(ござしょていえん)が大好きで、庭園を眺めていると、葉音が「お帰りなさい」と奏でてくれているようで、時間を忘れてしまいます。かれこれ30年以上前に、亡き父と西国三十三所巡りをしておりました。同じ山内にある第十五番札所である「今熊野観音」にお参りをしたのがご縁の始まりなのですが、

御座所庭園にいるだけで、その時の情景が今なお変わりなく蘇ってくるのです。今では本籍地となり、幾度となく目にする機会のある「泉涌寺」、不思議な巡り合わせを実感している次第です。これからも今まで同様、変わることなく静かにたたずみ、心を温かく包んでほしいと願うばかりです。そして、来年こそは、毎年成人の日に行われる泉涌寺山内の七福神めぐりと「澤正(さわしょう)」さんに行けますように。

★☆★*:.｡　　｡.:*☆★☆

そば茶寮　澤正　　TEL 075-561-47
京都市東山区今熊野剣宮町33-22

木村 謹治（きむら きんじ）

図表の読み方　1

　対面リーディング中に、表やグラフを見かけることがあります。ちょっと考えないと理解できないものや、なるほどと、本文では分かりにくかったことの手助けになったりと図は多様です。

　図や表は文章で書くより、見ることによって理解しやすく、また多方面に解析できるのが特徴です。従って、言葉で伝えるのは難しい部類に入ります。

　この特徴を踏まえて、どんな読み方があるか考えて行きたいと思います。

　対面リーディングは、下読みなし、図書の途中（一部分）から読むことがある、得意分野とは限らない、短時間に読み終わらなければならないなど制約の多い活動です。

　対面と同じように、音声で伝える「録音図書」と共通点もありますが、異なった点も多数あります。例えば、蔵書作りは書かれたことすべてを読むのが前提ですが、対面は利用者が不要と判断すれば読みません。携帯電話の取扱説明書ならば、図は音声化しないで利用者に触ってもらいながら説明することもあります。

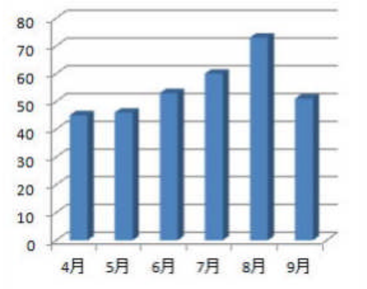
　あくまでも、対面リーディングは利用者の個別的な要求によって成り立つものです。

　ここに書かれたものは、読みに関する一つの意見であり、これが絶対ではありません。利用者によっては、この方法以外で読まれた方が理解しやすいこともあるかも知れません。このことを前提にお読み下さい。

グラフの種類

　図表の中でよくお目にかかるのはグラフでしょう。グラフにはどんな種類があるのでしょう。グラフの特徴を押さえると、読むヒントが生まれます。

棒グラフ



◎棒グラフは、縦軸にデータ量をとり、棒の高さでデータの大小を表したグラフです。（稀に縦横が逆の場合もあります。）

◎棒の長さによって数値を表現していますので、データの大小を比較するのに適しています。

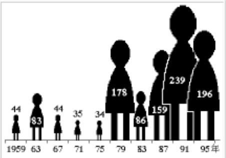
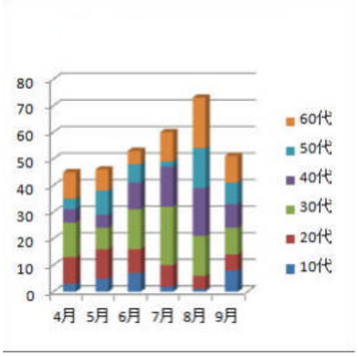


図 1. 絵グラフの例

■絵グラフ
◎棒グラフの種類のひとつ。
◎棒の代わりにテーマに相応しい絵で量を表します。

■積み上げ棒グラフ



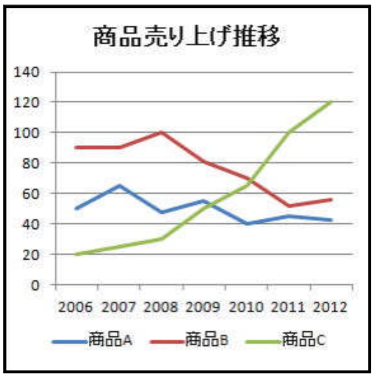
◎棒グラフの種類のひとつ。

◎１本の棒に、複数のデータを積み上げて表示したもので、棒グラフと同じように数値の比較に適していて、さらに内訳を表すことができます。

◎個々の構成要素の長さは、一番下を除き比べにくいが、合計の値を比較する場合に適します。

◎図のような積み上げ縦棒と横向きの積み上げ横棒があります。

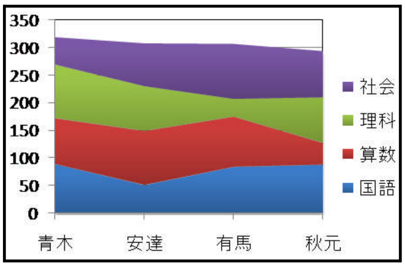
折れ線グラフ



◎時間の経過によりデータがどのように推移するのかを表したグラフです。

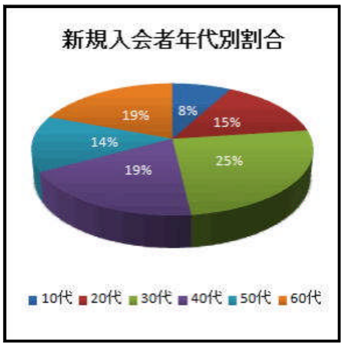
◎線が右上がりならその期間はデータが増加（上昇）、右下がりならデータが減少（下降）していることになるので、データの増減を見るのに適しています。

■面グラフ

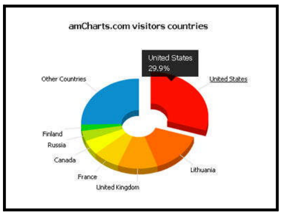


◎折れ線グラフの線の下の領域を塗りつぶしたグラフ

円グラフ

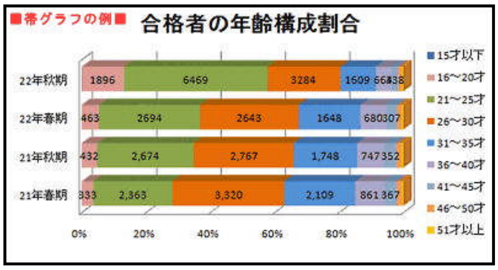


◎円グラフは、円を全体として、その中に占める構成比を扇形で表したグラフです。



◎扇形の面積により構成比の大小がわかるので、構成比を示すのに使われます。

帯グラフ

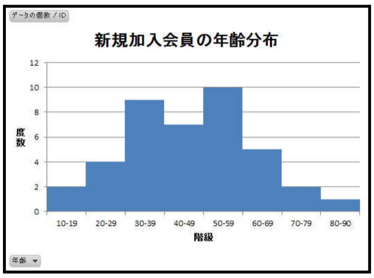


◎全体を100%として構成要素の大きさの比率を棒の長さで示したグラフ。

◎項目ごとの構成比率を比較する場合に適する。

その他のグラフ

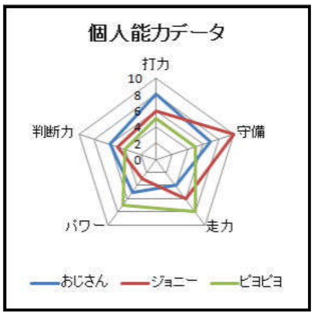
ヒストグラム



◎データの散らばり具合をみるのに使われます。

◎横軸にデータの階級を、縦軸にその階級に含まれるデータの数（人数、個数など）をとって棒グラフで表します。

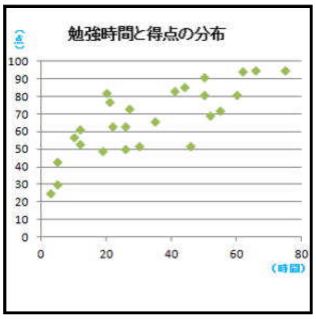
レーダーチャート



◎複数のデータ（指標）を一つのグラフに表示することにより、全体の傾向をつかむのに用いられるグラフです。

◎項目を直接比較できない時やバランスを示したい時に使用します。

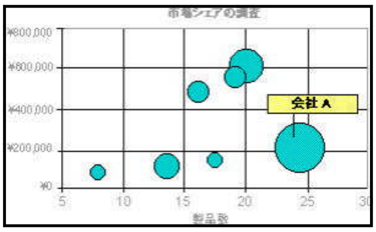
散布図



◎２つの項目に関する点を分布で示したグラフ

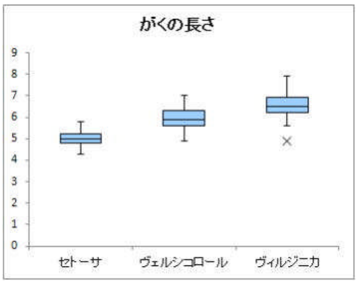
◎データを点で表し、どのような傾向があるかを把握することができるグラフです。

■バブルチャート



◎散布図の 1 つ。

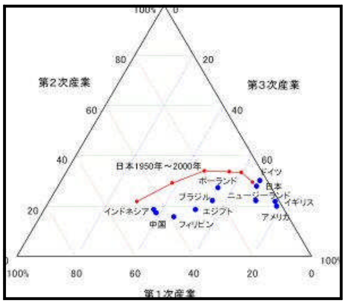
箱ひげ図



◎データのばらつき具合を比較するのに用います。

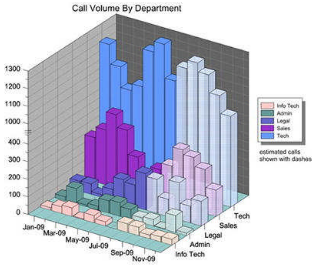
◎１つのデータのばらつきを見るだけでしたらヒストグラムでも見られますが、ヒストグラムでは異なる複数のデータのばらつきを比較することは困難です。そのような場合、箱ひげ図により比較することができます。

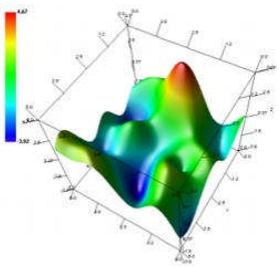
三角グラフ

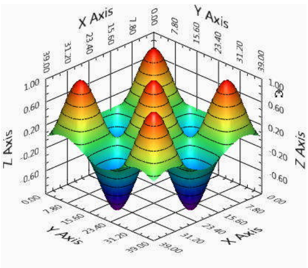


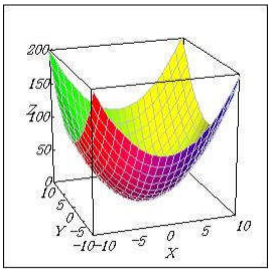
◎３つの構成要素の比率を表すのに用いられます。

３Dグラフ









実際の読み方

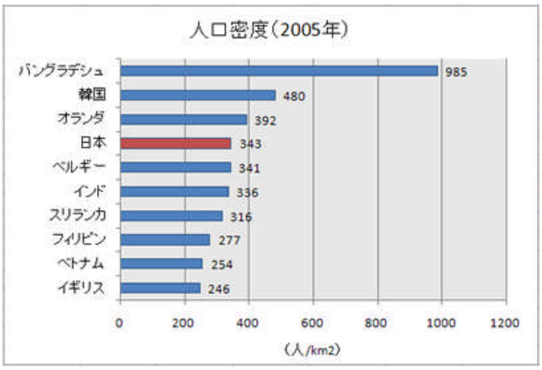
― 棒グラフ　折れ線グラフ ―

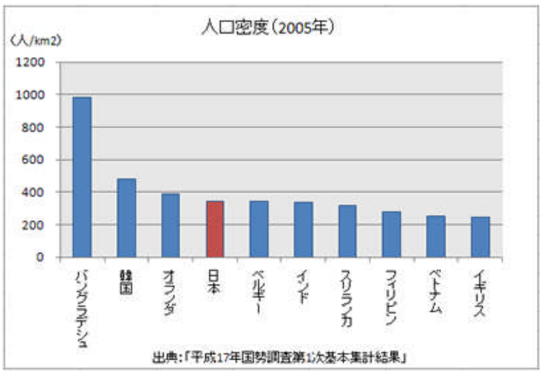
　代表的なグラフを書きました。それぞれ特徴があります。例えば、棒グラフは「量」、折れ線グラフは「推移（流れ）」、円グラフは「構成比」・・・を表すのに適しています。
　この特徴を踏まえて説明すると理解の助けになります。
　余談ですが、正しい読みが必ずしも正解ではありません。『ここに「箱ひげ図」があります』と言われて理解できる人は少ないでしょう。専門用語や業界用語、ある世代だけに通じる言葉などがあります。これらはすべての人が理解しているとは限りません。

　さて、本題に戻り実際の読み方を考えて行きましょう。
　もう一度確認させていただきますが、ここに書くのは数多くある読み方のほんの一例であり、絶対ではありません。
　また利用者には『読み飛ばして下さい』の選択肢はありますが、『読んで下さい』と言われたことを前提に話しを進めます。

　今回は「棒グラフ」と「折れ線グラフ」を考えて行きましょう。

［例　１］





　上記のグラフは表現方法の差により違った風にも見えますが、同じ数値を基に作られたグラフです。１番単純な部類に属するものです。特別な説明は必要ないですが、

- 標題…人口密度　2005年
- 単位…平方㎞あたりの人数
- 出典…出典は平成17年国勢調査１次基本集計　（右のグラフ）

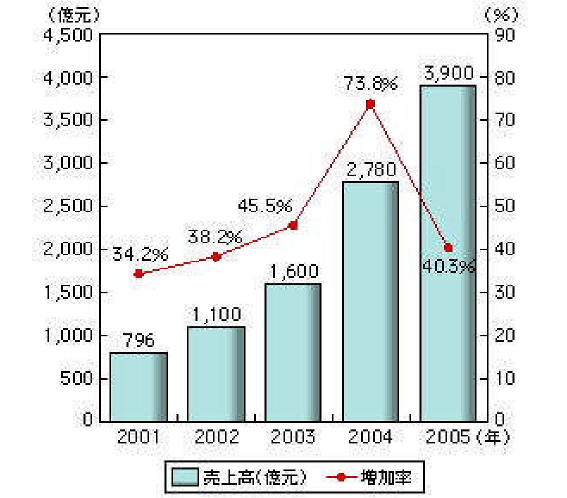
標題・単位・出典は、読まれた方がいいでしょう（以下読むことを前提に進めます）。左のグラフのように数値が入っておれば数値を読み上げることができますが、右のように数値が記載されていなくても『おおよその数値を読み上げる』ことを利用者にお伝えして目分量で数値を読み上げて下さい。また、横線が入っていない場合は定規などを当てて、おおよその数字を読み上げます。

　また、数字を読む前に『人口密度の高い順に読みます』と付け加えれば理解しやすいでしょう。この小冊子ではモノクロになっています。実際はカラーで日本は赤色になっていますが、このグラフでは特段色の違いは説明する必要はありません。

［例　2］中国におけるソフトウェアをめぐる状況

　中国においてソフトウェア分野が急速に発展している。

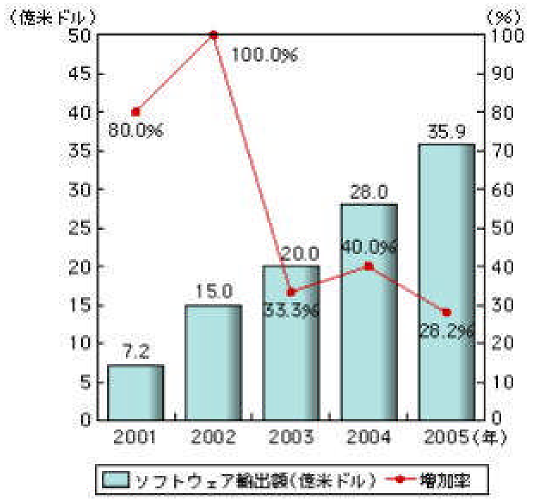
　中国ソフトウェア産業協会によると、中国のソフトウェア市場は、2001年に796億元、2005年には3,900億元と4年で約5倍に拡大している。また、ソフトウェア輸出についても一貫して増加しており、2001年に7.2億ドル、2005年には35.9億ドルとなった（図表1、図表2）。



※　2001～2005年の中国ソフトウェア産業規模及び年増加率の推移
※　2004年全国第一回経済調査の統計方法が変わり、調査対象が増加したため、中国情報産業部は、2004年の産業規模を2,003億元から2,780億元に調整した

中国ソフトウェア産業協会資料により作成

図表1　中国ソフトウェア産業の売上高の推移



※　2001～2005年の中国ソフトウェア輸出額及び年増加率の推移
※　2004年の全国第一回経済調査の統計方法が変わり、調査対象が増加したため、中国情報産業部は2004年のソフトウェア輸出額を26億米ドルから28億米ドルに調整した

中国ソフトウェア産業協会資料により作成

図表2　ソフトウェア輸出規模

　「例１」よりも複雑そうに見えますが、単純なグラフの部類です。量（金額）を表す棒グラフと変化（%）を表す折れ線グラフが複合したものです。「売上高」「輸出規模」は右肩上がりに順調に伸びていますが、増加率は増減（本文には説明はされていません）しています。

　グラフや表はどのようにも分析することができます。大雑把に分けると

　　①年度別に２要素（売上高・増加率）を同時に読む

　　②棒グラフ・折れ線グラフを別々に読む

が考えられます。上記のグラフでは②の方がうまく説明できるように思えます。

　まず、全体の説明です。（標題等は【例１】と同様の処理をします）

　「棒グラフと折れ線グラフで構成されたグラフです」「2001年から2005年まで書かれています」

「まず棒グラフです」「売上高の推移です」「単位は億元です」「年を経るにつれ増加しています」「では、数値を読み上げます」「2001年796億元」「2002年1100億元」・・・・

「続いて折れ線グラフです」「売上高の増加率が表示されています」「2001年から2004年までは増加率は高くなっていますが、（2004年をピークに）2005年は減少しています。」「では、数値を読み上げます」「2001年３４.２％」「2002年３８.２％」・・・

「これでグラフの説明を終わります」「続けて本文を読みます」

いかがでしょうか。できるだけ簡潔に書きました。丁寧に読めばこの２倍や３倍は必要でしょう。複雑な図表になれば、本文の何倍もの時間をかけて説明しなければなりません。果たしてそれがベストなのか迷います。

利用者に『この図はどうしましょうか？』と尋ねても、聞いて（読まれて）いない図表を判断する材料は持ち合わせていません。

「百聞は一見にしかず」と言う言葉がありますが、言葉通りとらえると100回も説明しなければなりません。これはオーバーですが、それほど説明するのが難しい作業です。

しかし、避けて通るわけにはいきません。成功例、失敗例を積み上げて、少しでもわかりやすい説明へと近づけていきたいと思っています。

このシリーズを始めるにあたって、しつこいようですが、もう一度下記のことを確認させて下さい。

絶対的な正解・不正解はありません。人により、同じ人であっても資料により、目的により要求は変わってくるものです。

また、利用者は原本を見ていません。読み終わるまで正確な内容はわかりません。

このことも含めて続けていきたいと思います。（木村）

＜１５１号の誌上勉強会について＞

＜ご意見＞　数式　a^{m+n} 、 $\sqrt{2x+1}$ 　について

「数式の読み方」に関して「ａ指数がmプラスｎです」や「ルートの中は２xプラス１です」などの「です」を「指数おわり」や「ルート終わり」に変えた方が、それぞれの区切りがはっきりするのではないでしょうかとの意見をいただきました。

＜訂正＞

また以下の2点の数式においては、誤解を与える可能性が高いので訂正いたします。

$\log_a x$　ログａエックス　⇒　（訂正）ログａのエックス

$\sqrt[n]{a}$　ｎ乗根ａ　⇒　（訂正）ａのｎ乗根

多数の意見ありがとうございました。皆さまの意見でよりよいものにして行きたいと思っています。どんな内容でも結構です、ご意見をお待ちしています。

寄り道・回り道

レポーター：谷口（たにぐち）　由紀（ゆき）

（デパートで買える）　乾燥に負けない、ハンドクリーム

【所在地】　大阪市北区梅田3-1-1　大丸梅田店内 10～12F（ハンドクリームは１２F）
【TEL】　06-6347-7188 （自動音声応答）
【行き方】　JR大阪駅直結
【営業時間】　１０：００～２１：００　（日・祝）１０：００～２０：３０
【URL】　http://umeda.tokyu-hands.co.jp/

　12月に入り、お出かけ時や対面室での活動時にも、乾燥が気になる季節がやってきました。

　大阪駅にある大丸梅田店の「東急ハンズ」では、乾燥対策の「ハンドクリーム」がたくさんそろっています。
　今回は、特に「ハンズおすすめ」として紹介されているアイテムをご紹介いたします。

○ナチュラルハンドクリーム

約50ｇ　525円

　カントリー＆ストリーム（井田ラボラトリーズ）

　かわいらしいクマのイラストが描かれているスキンケアグッズシリーズのハンドクリームです。ハチミツの保湿成分、ローヤルゼリーエキスなどが配合され、ほんのりハチミツの香りがします。

○プロ・業務用ハンドクリーム

約60ｇ　1,260円

　ディーフィット

　オレイン酸をたっぷり含んだハイブリッドヒマワリ油やホホバ油、スクワランなどを配合したハンドクリームです。天然の成分だけでつくられているハンドクリームなので、お料理途中でも使用可能とのこと。

○タッチパネルハンドクリーム

約60ｇ　630円

　プロフエール（井田ラボラトリーズ）

　スマホやタブレットを使う人用のハンドクリームです。タッチパネルの操作性を考えて作られているとのことで、手にのばすと水分がにじみ出てくるウィーターイン処方。べたつかず、指紋汚れもつきにくくします。

　以上の内容は、インターネット上の「東急ハンズ」HPや、通販サイトの商品情報を参考にして書きました。

番外編

　シットリした手の次は、ぷるぷるの唇。思わずほほ笑んでしまいます。笑う門には福来たる。寒い冬にピッタリの心暖まるお話しです。男性もどうぞ！

○リップ・ピーリング　８ｇ　1,365円

　トレンドホリック

　乾燥がひどくなってしまった唇には、クリームを塗る前に使用してみませんか。お砂糖のスクラブで優しくマッサージ。軽く拭き取れば、ぷるぷるの唇が復活します。

浅川智恵子

IBMの最高技術職であるIBMフェロー

木村 謹治

浅川智恵子さんとの出会いは現在のサピエ図書館の前身である「てんやく広場」を構築するための会議の場でした。

てんやく広場は日本ＩＢＭの社会貢献活動の一環として世界で初めてパソコンを使って点訳しネットワークを通じて全国に配信するシステムです。

当時はパソコン自体がが珍しく、見たこともない人も大勢おられました。また、インターネットも普及しておらず、ダイアルアップによるパソコン通信の時代です。

システムを作るために定期的に東京に出張し、ＩＢＭの東京基礎研究所の研究員であった浅川さんと夜遅くまで話し合った事を思い出されます。

浅川さんは日本ライトハウスとも関係が深く、１９８４年にライトハウスのリハビリテーション・センターの情報処理学科修了されました。

そんな関係で、面と向かって言ったことはないのですが、親しみを込めて（？）浅智恵（あさじえ）さんと密かに呼んでいました。声には出していなかったのですが、本当に失礼なことと恥じ入っています。

浅川さんは小学校時代にプールで泳いでいた際に頭を壁にぶつけて怪我をし、視神経を痛めたのがもとで徐々に視力が衰え始め、中学2年生のときに失明しました。

1982年に追手門学院大学英文科を卒業。1984年 日本ライトハウス情報処理学科修了し、同年、日本アイ・ビー・エムの学生研究員、1985年に正式入社、東京基礎研究所に配属され、点字編集システムの開発に取り組まれました。

パソコン点訳以前は点字版で１点１点打つか、せいぜいタイプライターで１文字ずつ打つしかありませんでした。校正で間違いが見つかると、間違った箇所以降をすべて打ち直ししなければなりません。量が多ければ打ち直した文中に、また間違いが見つかる可能性があります。点訳するのに時間がかかるし、修正が困難でした。

この状況を一変させたのがパソコン点訳です。最初は戸惑いもあり、ボランティアもおそるおそるの切り替えでしたが、今では手打ちに戻ることはできません。

パソコン点訳は修正が簡単なので、妥協することなくいい本を作ることができます。

また、プリンターで打ち出すことで簡単に複製ができます。手打ちの時代では、話題の本であっても１冊しかできないので順番待ちをしなければなりません。極端ないい方をすれば全国の利用者が１冊の本に集中するということです。

デジタル化されたデータは通信ネットワークを通じて配信することができます。製作した図書館だけではなく、全国の図書館や利用者が直接利用できるシステムがこうして出来上がりました。

このシステムとネットワーク作りに深く関わったのが浅川さんでした。今日のサピエ図書館の礎になった浅川さんの業績は高く評価されています。

今ではインターネットが生活に深く根ざしています。一部ではネット中毒も叫ばれる人が存在するほどですが、黎明期には視覚障害者が利用する事が困難でした。点訳や音訳されていない本と同じで、画面に書かれている情報を見ることができません。

そこで、浅川さんはウェブページを音声で読み上げる音声ブラウザソフトウェア開発に取り組みました。

その結果、1997年に「IBMホームページリーダー」として世界で初めて発売されました。1999年に英語版が発売された後、世界11か国語に翻訳され発売されています。

キーボードを操作すると音声合成の機能により画面上の文章が次々と読み上げられ、画面を見なくても目当ての情報にたどり着けます。インターネットを利用する視覚障害者の必需品と呼ばれました。

従来、基本的な情報を知ることも人に頼まなくてはならなかったのが、このソフトウェアを用いることによって自身で情報を入手することが可能となりました。また、オンラインショッピングなど、視覚障害者のQOL向上に多大な貢献をしたソフトウェアと評価されています。

浅川さんは、視覚障害者のための情報アクセシビリティ向上技術において世界的に多くの研究成果を上げ、情報環境改善に量り知れない恩恵をもたらしました。

これらの業績が評価され 2008 年度喜安記念業績賞、2009 年 IBM フェロー、2013 年紫綬褒章受賞を受賞されました。

IBMフェローは、「継続的かつ卓越した技術実績とエンジニアリング、プログラミング、サービス、科学技術の分野に貢献した最高の技術専門家の中から任命されるIBMの技術者の最高職位」と定められる職位です。

研究者・浅川さんが取り組むのは、視覚障害者や高齢者、また貧困などによって学校へ通えず、字の読めない人たちであっても、ＩＴ技術によって、さまざまな情報を簡単に手に入れられるようにする、いわばＩＴのバリアフリーの研究です。

また浅川さんは、働きながら東京大学工学系研究科先端学際工学専攻し、２００４年に工学博士号を取得するなど、人一倍の努力家でもあります。

お断り：以上の内容は、Wikipedia、マイナビニュース、NHK「プロフェッショナル　仕事の流儀」などのInternetの情報を参考にさせていただきました。

おしらせ　ハングル人名の読み方

ハングル文字を読める人は少ないと思います。ボランティアの江口不二子さんが『朝鮮語辞典』の付録に書かれている、ハングル語で書かれた人名にカタカナで読めるようにして下さいました。文中にでてきた場合は参考にして下さい。辞書の最終ページに挟んでいます。

▼電子書籍を購入しました▼紙と同じような雰囲気で読める専用機▼スマホでもタブレットでも▼文庫本程度重さに数百冊詰め込んで持ち歩き▼割引もあり、購入しすぎて請求がうん万円　*K*

日本ライトハウス 情報文化センター
550-0002 大阪市西区江戸堀1-13-2
06-6441-0015（代表）
06-6441-0039（サービス部）